

# 御門徒紹介

福島区にお住いのOさんはとても器用な方です。

先ず目についたのが、着物でした。女性物の古着物を男性物に作り変えられたそうです。それだけでなく、古い着物を解いてズボン等にリメイクされます。



裁縫を始められたきっかけは、「郡上おどり」。ご友人に誘われてお祭りに参加し、踊りに魅了されたからだそうで、腕前は郡上踊りの免状まで習得されたほどです。

そこで、浴衣が他の人と被らないように、オリジナルを求めてご自分で作られるようになったそうです。



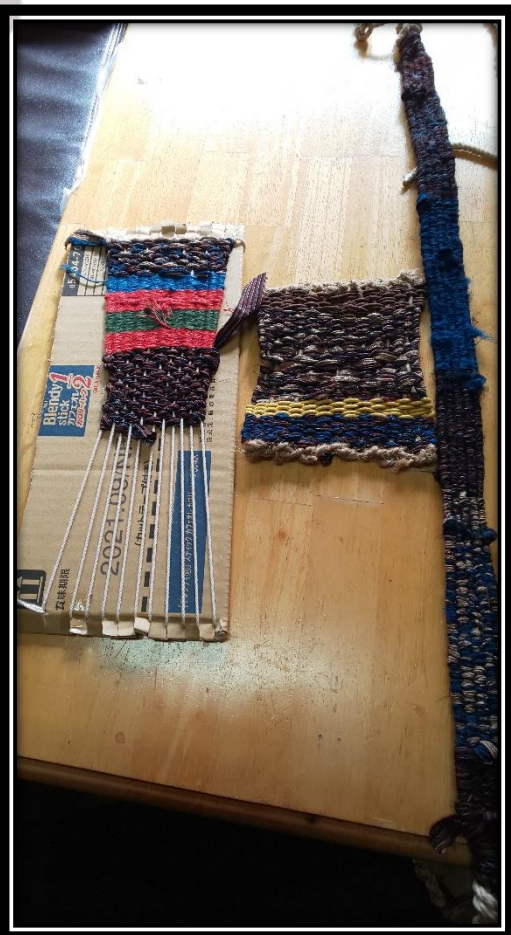
帆布バッグは柿渋で染めてあります。柿渋も1年かけて作ったり、購入したのものも使って染めも色々試したり、染まり具合も研究されたそうです。





**籠は和紙を貼って柿渋を塗ってあります。何もしていない時の籠と比べてみると強度の違いに驚かされます。こうすれば破れた籠であっても補強されてまだまだ使えるのですね!(^^)!**

**こちらの着物の切れ端で編んだ紐はバッグの持ち手用でしたが、仲に芯を入れて編み、浴衣とコーディネートして下駄の鼻緒にしてみようと検討中だそうです。**



**左の写真の一番左は、段ボールを使った簡易編機。着物の切れ端を編んでコースターやベルト(帯)を作られていました。**

**昔、この切れ端は畑仕事などで使う背負子の紐になっていたそうです。先人たちは物を無駄にすることなく大事に最後まで使っていたのですね。素晴らしい知恵です。**





こちらは赤ちゃんのかぼちゃパンツ。海外で国際結婚された娘さんに昨年赤ちゃんが生まれたばかり。

赤ちゃんのために、縫い目が肌に触れないように表で縫ってあります。日本手ぬぐいで肌触りもばっちり！



右のがま口のバッグは海外で暮らす娘さんとそのご主人用。和柄で可愛く、且つクール。お父さんの愛情がしっかり伝わる作品です。裏地も違う柄で、とっても素敵です。喜ばれますね♪

お話を聞く中で、私にもプレゼントして下さいました。大切に使用させていただきます。



Oさんは十数年前に奥様を亡くされました。その奥様もこまめな方だったようで、裁縫道具などが沢山揃えられていたそうです。ご主人がそれを引き継ぎ、今、楽しんで様々なモノ作りに使われています。奥様もきっとお喜びのことでしょう。

また、20代の時に近県に土地を求められ、ご家族でキャンプ等もされていましたが、今ではそこにご自分で小屋を建てて週末にはお一人で楽しい時間を過ごされています。

お好きな踊りからの派生でモノ作り。それも多岐にわたって沢山の作品をほぼ独学でされていることに驚かされました。お味噌も作られたそうですよ(\*´艸`)

質問も沢山させていただきましたが、全てに丁寧に答えて教えて下さいました。その場で急にリクエストしたのですが、近隣の小屋の様子や、生まれたばかりのお孫さんの写真も見せて下さいました。凄く可愛かったです(\*´▽´\*)

まだまだ見せていただいた作品は沢山あるのですが、ご紹介しきれないのが残念です。

またこれから色々な作品が増えていくことでしょう。ご自分のペースでぼちぼちと楽しんで色々なことに挑戦してもらいたいです。そしてまたOさんの知恵や先人たちの知恵を教えてもらいたいなと思います。

取材にも快く応じて下さり、突然のお願いにも笑顔で答えて下さいました。楽しくてついつい沢山質問して長話をしてしまいました。とっても素敵なOさんでした。嫌な顔一つせずご対応下さいありがとうございました。

